



号外 (令和5年3月13日)

# 信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ 特別隊員 島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。今回は号外として、シンポジウムのご案内です。

シンポジウム

## 北アルプス山岳利用サミット ～令和時代の山岳利用について考える～

●日時：令和5年3月23日（木）

開場 13：30 開演 14：00 閉演 16：00（予定）

●会場：まつもと市民芸術館 小ホール（松本市深志3-10-1）

\* 駐車場はございませんので、公共交通機関や近隣の有料駐車場をご利用ください

\* オンライン同時配信

●参加費：無料

●参加申込について

\* 3月20日（月）までに参加フォームからお申込みください

参加フォーム



内容

登壇者

1. 開催趣旨説明

五十嵐 雅人

株式会社山と溪谷社 山と溪谷編集長

2. 各者からの極近代登山  
における課題提起

佐藤 泰那

株式会社 ADDIX 執行役員 総編集長

<山小屋>

登山者から見た  
山岳利用の課題

武田 祐也

長野県警察山岳遭難救助隊松本班班長

<環境省>

山岳利用の課題と今後

森川 政人

環境省中部山岳国立公園管理事務所長

仁田 晃司

環境省中部山岳国立公園管理事務所  
国立公園保護企画官

<共催各者>

各者が捉える課題

佐伯 賢輔

北アルプス山小屋協会 会長、天狗平山荘主人

佐々木 泉

黒部観光旅館組合 組合長  
阿曾原温泉小屋 代表

3. パネルディスカッション

山田 直

北アルプス山小屋友交会 会長  
有限会社奥上高地横尾山荘 代表取締役

4. 終了挨拶

主催：環境省中部山岳国立公園管理事務所・北アルプス山小屋協会

共催：株式会社山と溪谷社、株式会社 ADDIX、長野県警察山岳遭難救助隊 後援：株式会社ヤマップ



## —令和時代の山岳利用について考える—

昨今、コロナ禍によるアウトドアブーム、インバウンド観光の再開等により、山岳未経験者の利用が増加しています。山岳関係者としては、山岳利用者が増加することを歓迎する一方で、山岳利用のルールが浸透していないことによる遭難や他利用者の気分を害するケース等の発生を危惧しています。北アルプスは中部山岳国立公園に指定されているエリアが多く、景観・動植物保護等に関する規制があります。また、標高や地形等から高い登山技術を要するエリアも有しています。そのような中で、関係自治体・関係団体はそれぞれに山岳利用のルールを発信していますが、山岳関係者側からの呼びかけだけでは、その浸透に限界があります。

世界的にも利用者参加型の観光地域づくりの重要性が高まる中、北アルプスにおいても利用者と山岳関係者が協力したより良い山岳観光地域づくりを進めていきたい、そのような思いを起点にして、これからの山岳利用のあり方を考えていきます。

シンポジウム後には、参加者の皆様のご意見をいただくアンケートを行います。いただいたご意見は、北アルプスの利用者と山岳関係者が協力したより良い山岳観光地域づくりの参考にさせていただきます。ぜひ、あなたのご意見をお聞かせください。

### <登壇者プロフィール>



#### 五十嵐 雅人

月刊『山と溪谷』編集長。1998年、山と溪谷社に入社し『ヤマケイ JOY』『ワンダーフォーゲル』『自転車人』『CAMP LIFE』などの雑誌編集部を経て2022年春より現職。YouTubeチャンネル『山と溪谷チャンネル』の運営にも携わる。好きな登山形態は沢登り



#### 佐藤 泰那

アウトドアメディア『ランドネ』『PEAKS』ほかアクティブな趣味にまつわるコンテンツのデジタル設計及びマルチチャンネル展開といった、BtoC事業を管掌。地方自治体のコンサルティングや読者ファンイベントの企画なども手がける



#### 武田 祐也

平成20年 長野県警察拝命

平成21年 安曇野警察署にて長野県警察山岳遭難救助隊として指名を受け、以後、機動隊、松本警察署、山岳安全対策課（航空隊）を経て、令和4年3月から現所属救助隊歴通算12年（除隊期間あり）



#### 森川 政人

環境省中部山岳国立公園管理事務所長。北アルプスのほぼ全体が中部山岳国立公園に指定されており、その管理（自然保護と利用推進の両立）を担う。国立公園満喫プロジェクトで取り組む「松本高山 Big Bridge 構想」を主導。利用者負担の仕組み導入など、山岳利用環境維持に向けた取組みを推進。2009年4月環境省入省。本省では外来生物対策、国立公園満喫プロジェクト等を担う。現場では霧島錦江湾国立公園霧島地域での管理官等を経て、2020年4月より現職



#### 仁田 晃司

2度の転職を経て平成18年環境省入省。中部山岳国立公園後立山担当からはじまり、尾瀬、南アルプス、富士山などの現場や、アホドリ保護増殖事業では大海の孤島・鳥島でサバイバル生活を送りながらアホドリ事業を展開、鳥島への上陸は省内で最多7回を数える。



#### 佐伯 賢輔

1959年生まれ。名城大学在学中、家業の山小屋を継ぐため中退。20歳より天狗平山荘に入る。立山周辺にて遭難捜索や遭難救助にもかかわっている。現在に至る



#### 佐々木 泉

1960年生まれ。1980年より富山県警察山岳警備隊員を拝命、立山・剣・黒部を中心に山岳遭難救助活動に当たる。1993年に富山県警を退職し「阿曾原温泉小屋」の経営に当たりながら、黒部峡谷を中心に山岳遭難救助・登山道整備・岩壁での災害復旧作業等々に携わる。環境省自然公園指導員・県環境保全協会理事・県山岳救助隊顧問・県登山指導員等々



#### 山田 直

1961年生まれ。横尾山荘代表取締役、北アルプス山小屋友交会会長、北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会 救助隊長。高校と大学で登山を覚え、社会人山岳会に入り、登攀を経験する。いつしか、登攀よりも山での生活に軸足を移し、1984年から横尾山荘に入る。近年は安全登山の啓発や登山文化の継承、後進の育成にも力を注ぐ